

令和3年

長野市民生委員児童委員協議会 第48号



民児協ながの

発行 長野市民生委員児童委員協議会
会長 伊藤篤志
編集 広聴広報委員会

長野市緑町1714-5
長野市社会福祉協議会内
電話 026-225-1234

「オレオレ詐欺への新戦略」 中央署と民生児童委員との連携

三輪地区民児協会長 中澤 敏子

未だコロナの渦中であつて民生児童委員としての日常生活も自粛を強いられ何かと委縮しがちの昨今です。そんな中で、前向きに取り組めた実践例を紹介させていただきます。

定例会に諮り了解を得ました。まず下宇木地区をモデル地区として活動が始まりました。民生児童委員一人ひとりに警察官が同行し高齢者宅を訪問すると安心して話を聴いてくれました。お役に立てていることを実感しました。

5月上旬の三役会の席へ中央署の生活安全課の課長さんが出席され、この地区からオレオレ詐欺の被害者を一人も出さない作戦にぜひ協力を得たいと。主旨は警察署と民生児童委員が連携して高齢者宅を一軒一軒訪問し被害にあわないための対策を丁寧伝えること。これまでのチラシやテレビ等での取り組みは効果を上げていない。警察官単独で訪問すると高齢者は緊張したり、なりすましを疑って玄関のカギを開けてくれないという内容でした。



高齢者への丁寧な説明



音声録音器

が功を奏することを祈りたいです。

①知らない人からの電話に出ないこと ②留守電の設置 ③音声録音装置の設置。警察官が電話器を点検して留守電装置をセットできた家は何軒もあり感謝でした。この連携活動が「長野市民新聞」とNHKの「イブニング信州」で取りあげられました。

新鮮情報を利用した活動について

吉田地区民児協会長 小林 聖一

当地区では数年前に、訪問・見守りにお持ちするツールが欲しいねと委員から要望がありました。検討を重ね(独)国民生活センター発の「見守り新鮮情報」に行きつきました。

この「見守り新鮮情報」には、その時の社会情勢の内容が記載されており、文字は大きく、漫画化したイラスト入りで、見守り対象者の方々への情報としてお持ちするには非常に良いものです。現在、1千180戸に配布しています。

片面刷りなので裏面の無地の面に、委員によっては色々な情報を記入したり、印刷して配布しています。

今まで捨てずに保存されている方もおり、情報源として好評です。自分だけは詐欺に引っかかりたくない、被害に遭うのは不注意な人だけだと思っています。しかし情報が少ない高齢者は寂しいのが本音であり、その心の隙間を狙うプロに打ち勝つことは至難の業です。

吉田地区民児協ではこのチラシで高齢者の方々が、詐欺等に遭わないよう、平穏な日々をお過ごしただくよう願っています。

犀南地区民生児童委員協議会合同会議

「災害時住民支え合いマップの活用について考える」

川中島地区民児協会長 小池 邦武

犀南地区合同会議は、更北・松代・大岡・信更・篠ノ井・川中島の6地区で、6月25日に約90人の委員が参加して、川中島町公民館で開催しました。

川中島地区は昨年度が開催地区の持ち回り当番で、9月に計画をしましたが新型コロナウイルスの影響から、今年6月に延期をしました。しかし、依然コロナ禍で会議の縮小や時間短縮等、感染防止対策を徹底した開催となりました。

講演の前半は、県社会福祉協議会総務企画部・企画グループ主任の橋本昌之講師より「災害時の住民支え合いマップの活用について考える」と題して、近年の災害時住民支え合いマップが活用された事例が報告され、令和元年の台風19号災害における「長沼地区の民生委員の取り組み」や、平成26年の地震災害で「白馬神城堀之内地区」の地域住民による救出活動事例などが紹介されました。特に民生委員の日常的な活動が



支え合いマップ活用を学ぶ

災害時に有効的で、大切なことは、平時から地域のつながり「顔が見える。顔がわかる」ことが、いざ災害時の避難行動で、安心感、地域力だとの話がありました。

また、後半の講演では川中島町住民自治協議会・地域福祉ワーカーの山崎宏美講師より「災害時住民支え合いマップ」川中島町の取り組みについて「昨年度の実施状況は13地区中、6地区で作成との報告があり、「誰しもが安心して暮らせる町」の実現に向けて、皆様と共に進めてまいりたいとの話がありました。

いざという時の「災害時住民支え合いマップ」作りの取り組みを通して、住民同士のつながりと触れ合いが一層深まることで、より有効性のある「マップ」が完成するのではないかと思います。

単位民児協の交換研究活動紹介

「コロナ禍における交流研修会の開催」

中山間地域民生委員児童委員

信更地区民児協会長 倉島 信子

令和3年7月14日、信更地区が当番で、長野市中山間地域の民生委員児童委員を対象に、交流研修会を開催しました。本来は、昨年開催の予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。



コロナ感染対策を徹底し開催

信更地区は民生委員14名と主任児童委員2名で活動しております。令和元年の改選で新任委員が10名いますが、コロナ禍のため交流会もできない状況です。

今回も委員から開催に反対の意見もありましたが、いつコロナが終息するか分からない中、いつまでも先送りするわけにもいかなないという意見もあり、3月から定例会や役員会で話し合いました。そして、感染対策を徹底し、会場の規模を考慮し、参加人数の縮小と時間短縮のうえ開催しました。

他地区と同様の課題が山積しています。少子化のため保育園は令和2年度末で休園、中学校は令和4年度末で閉校予定で寂しい限りです。当地区は近年人口減少と高齢化率の増加も顕著であります。一人暮らしの高齢者も増える中、コロナ禍で難しい状況ですが、月1回以上は訪問見守り、相談相手として活動しています。定例会での近況報告を通して困難な課題解決を皆で行い、一人で抱え込まない方向で動いています。

講演会では令和3年度刊行予定の「信更町誌」編集委員長・大屋弘先生の「嫁池物語」の興味深い話と元信田村長が方面委員であったとの話をいただき、歴史認識を深めるひと時でした。

意見交換ではテーマを決めて行く、グループごと活発な意見が出て、今後の中山間地域交流研修会のあり方に一石を投じたのではない

第四地区民児協の今

第四地区民児協会長 山田 治子

第四地区は全6町で構成されており、県庁等の官庁機関及び大型ホテルに加え多数のマンションや大学の寮等も混在し若者層から高齢者まで多様な方々が活動している昼夜人口の差も大きな特殊な地域です。

新委員5人を迎え女性12人で活動しています。コロナ禍でもあり直接話し合う時間が制限される中、最初に開設したグループライン機能を利用して時間や場所に関係なく委員同士の連絡を頻繁に行いながら、各自マスク着用等コロナ感染対策をして、訪問活動や主任児童委員の登校見守り活動も変わりなく続けます。

時間を都合し市担当者に活動記録の記入を分かり易く説明頂き毎月役立つ研修が出来ました。全員「地域住民の身近な相談相手」として活動しています。第四地区は各町の区長や住民自



住民の身近な相談相手に

治協議会との協力関係が良好で、災害発生時に避難誘導が必要な方々に対する対応策を連携して行えるよう「第四地区特有の避難策」を立案しました。

住民の皆様により理解して頂けるように提案して、民生委員児童委員の仕事内容及び担当地区委員

の名前と連絡先が記載されたカラー刷のお便りが出来上がり全戸配布しました。

地域在住75歳以上が対象の「いきいき交流会」を例年開催してきましたが昨年はコロナ禍で中止しました。今年

はコロナ禍で中止しました。今年はお便りを配布し、準備中です。

参加を楽しみにしている皆様喜んで頂ける会にしたいです。

第四地区民児協は少人数ですが、地域福祉の担い手、身近な相談相手として活動しています。

発信・わが民児協

篠ノ井共和地区民児協の活動

民生委員児童委員 古畑 幸一

当地区は、篠ノ井地域の西部に位置し、明治時代より養蚕に代わる作物として栽培を始めたりんごが、今日「共和のりんご」として全国に出荷され、地域の一大産業として独自の園芸組合を設け、約300軒の専業農家が栽培に従事しています。

また高齢化率も35・6%で、80代90代のお年寄りが元気で農作業に携わり健康そのものです。

地区内には、昭和52年に自然植物園が開園、続いて恐竜公園・動物園などが開設され、茶臼山動物植物園として、現在県内外から多くの観光客が訪れています。

豊かな自然環境下ですが、福祉課題として、少子高齢化、独居世帯も増え、地域住民の連帯が希薄になり、また地域の自治活動への参加や住民同士の交流が少ない状態です。

その中で福祉活動は、地域包括支援センター、市福祉課等関係機関と密接な関係を保ち、高齢者が住み慣れたこの地区で、安全・安心に暮らせることを目指した活動が心がけています。

毎月の定例会では、およそ百人余の独居老人の見守り活動や定期訪問での相談などにおける問題点を話し合い、関係機関からの指導も得て検討し、実態に沿う対応を行います。

▼お茶のみサロン
全13地区で開催し、民生児童委員、健康・福祉推進員などが協力し、大勢の方が参加しています。

▼ふれあい会食
民生児童委員、健康・福祉推進員に、日赤奉仕員等も加わり、一人暮らし・高齢者世帯・昼間独居の高齢者を対象に開催。内1回は小学校で児童との交流の場を設け、童心に返りゲーム等を行い、児童から力を貰い楽しい時を過ごしています。

▼はつらつ倶楽部体操
健康寿命を長く保つため高齢者同士で、はつらつ体操、脳トレなどを一緒に楽しみながら、現在4地区が公民館で開催。

▼防災対応
当地区内で3年続けて土砂災害警戒の避難指示・勧告の発令もあり、日頃から住民同士の絆を深め、災害時に備えた支援体制を整え、防災に強いまちづくりを目指しています。

要支援者支援対策に重点を置いた防災対策策定のため、区長会長、消防団組織と連携し活動しています。

□児童母子(父子)福祉部会

部会長 宮下 弥子

6月21日全体研修会を開催し、中央児童相談所加藤課長から、相談事例を軸に児童虐待についてお話いただきました。前回、子育てを支援する長野市の諸制度を研修いただいた際、児童虐待への取組にも触れていただいたのですが、研修後のミーティングで「日頃の活動の中で児童虐待にどう向き合えば良いのか」「実際の事例から考えたい」等の声が多く出て今回の研修となりました。

相談事例では、父親による家庭内暴力で引き起こされた児童への心理的虐待、子育てが「孤育て」となった事で母親が追い詰められた事例等

□障害者福祉部会

部会長 大池ひろ子

5月7日、部会総会と「知的障害の理解と防災について」をテーマに、全体研修会を開催しました。

講師は、2年前の台風19号災害で大きな被害を受けた、豊野町にある障害者支援施設「水内荘」の小島健一所長、竹内係長のお二人。台風19号で3か所のグループホームの床上浸水をはじめ水内荘グループ全体の被害の甚大さに驚きました。

竹内係長による今回の水害の教訓は、①避難指示が出た際の避難に関しては「空振りでもよい。避難して何もなかったねと喜べる意識に替えていく必要がある」。②備蓄は、「避

について、発見やその後の見守りに民生委員が果たした役割、関係機関の対応等をお話いただきました。

虐待が児童に及ぼす影響では、自己肯定感の低さや対人関係への心理的影響のみならず、脳の発育を妨げ、知的発達にまで影響するとのお話に会場がざわつきました。最後に「身近に相談できる先が無い時、近所の人の温かい一言に救われた親も多い。地域で声を掛け合い、心配な家族を関係機関に繋げて欲しい」と結ばれました。今回は児童相談所からの措置委託で児童を受け入れる児童養護施設「三帰寮」様の講演予定です。

専門部会の活動報告

□高齢者福祉部会

副部会長 笹山十三子

5月21日開催の全体研修会では、「元気な時からもしもの時のことを考え『人生会議』を始めてみませんか」を演題に、地域包括ケア推進課の丸山知恵美係長にお話頂きました。

近年核家族が進んだことにより老人の一人暮らしや老々夫婦の家庭が増え、また昔のように家族や親戚が集まることも少なくなったように感じます。

年を重ねるにつれ、自分が明日も元気であるのか予測することは難しくなってきました。そんな中自分自身

の終末について、元気なうちに話し合い自分の考えを共有しておくこと。いわば「人生会議」が大切になってきます。

地域の方の話を聞いていると、これらのことを行わずに年を取り「こんなはずではなかったのに」と後悔する方の声を耳にします。

やはり、今後について話し合いを家族で行い自分が後悔しないためにできる第一歩なのではないかと実感する良い機会になりました。

また参加した委員から、訪問先でこのような相談を受けた時の対応について、質問や意見の共有がなされ充実した研修会になりました。

□主任児童委員部会

部会長 石田三千夫

5月19日に感染防止対策の為、午前十後の2回に分け、長野市子育て支援課を中心とし、「里親支援制度」についての県及び市内児童養護施設の里親支援専門相談員による研修会を開催しました。

県長野中央児童相談所・柳田主査により社会的養護の方向性について、続いて里親支援専門相談員の松代福祉寮・玉井さんから、「家庭を必要としている子どものための里親制度」について、親による適切な養育を受けることのできない子どもの

保護・養育を行う公的責任や養育に

大きな困難を抱える家庭への支援について説明がありました。今後の社会的養護は、大勢の子どもを一つの施設で養育するのではなく、環境をできるだけ家庭に近づけるように、児童養護施設であれば小舎制といった一般家庭と同じ5〜6人が一棟で生活できる施設設備となつていきます。しかしこれはあくまで養護施設であることに変わりはなく、もっと家庭的環境として相応しい「里親制度」の周知と拡がりが必要です。必要とする子どもには重要と認識しました。

里親制度は4種類あり、制度を理解し、周知に助力することを学んだ研修となりました。